

第2回 岸和田市丘陵地区整備機構協議会 議事録

日 時：平成20年10月24日（金） 14：30～16：05

場 所：岸和田市 だんじり会館1階 会議室

出席者：久 隆浩委員

下村 泰彦委員

道齋 芳雄委員

谷口 敏信委員

相良 長昭委員

角野 久義委員

大松 忠男委員

河野 博彦委員

黒川 孝信委員

櫻井 幹夫委員

辻本 富孝委員

森 一晟委員

山本 一晃委員

事務局：出原、森口、奥、小畑、笹島、渡邊、株式会社八州 畑中、堀下

開 会 午後 2 時 3 0 分

《事務局》

皆さまお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻となりましたので、第 2 回岸和田市丘陵地区整備機構協議会を始めさせていただきたいと思います。

E 委員と C 委員が、本日ご欠席されるという連絡をいただいております。また、議事の前に、前回ご欠席でした N 委員さまに委嘱状を交付させていただきたいと思います。

(委嘱状交付)

《事務局》

なお、N 委員さまにつきましては前回の協議会におきまして、委員の皆さまのご推薦で、検討委員会から引き続き副委員長としてお願いしたいということになりましたので、ご挨拶を頂きたいと思います。

《副委員長》

大阪府立大学の N でございます。緑地計画を専門にしておるものでございます。微力ながら皆さまと一緒に、いいまちをつくれるように励みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

《事務局》

ありがとうございます。では、議事に進みたいと思いますので、委員長より開会のご挨拶をいただきたいと思います。

《委員長》

こんにちは。整備機構の協議会になってから 2 回目ということでございます。前回も色々と忌憚のないご意見をいただきましたけれども、今日もお知恵、お言葉いただきながら進めてまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

《事務局》

ありがとうございました。それでは議事の進行を委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

《委員長》

今日の案件としましては、「丘陵地区整備の進め方について」ということですが、前回、「道の駅」はどうなっているんだというお話もありましたので、それも含めながらお話をさ

せていただきたいと思います。まず事務局からご説明、よろしくお願いします。

《事務局》

今回は「岸和田市丘陵地区整備の進め方について」ということで、資料の説明をさせていただきたいと思います。

《各資料を基に説明しております。下記は要点のみ記載しております。詳しくは別添資料をご覧ください。》

丘陵地区整備の進め方について

「自分の土地がどこに行くのか?」、「自分の土地をどのように使うのか?」という地権者の意向を把握することや、土地利用の検討を市が中心になって行い、すり合わせをして、色々な土地利用を形成していくことが必要である。また、トリガー（引き金）としての事業との関わりを考えていく必要がある。これらを検討しながら、土地の整理を行い、最終的に農的事業展開と都市的事業展開の2つの事業展開を進めていくことを説明。

地権者へのアンケート調査について

「アンケートを作成するに際して現状で聞ける内容は何か」、「地権者のビジョンを把握することが必要であり、事業展開には地権者の将来の意向を確認する」という二点を基本とした5つの設問をアンケートの試案として説明。

「道の駅」の整備計画及びその効果について

「道の駅」は現在のモータリゼーションの中で地域の玄関口として鉄道駅と同等の施設という発想から生み出され、その機能を活用することにより、人や物の交流拠点として岸和田の魅力を伝えることや、次世代へ魅力を伝える施設としての効果を最大限に引き出すような連携を丘陵地区として検討・検証する必要があることを説明。

《以上、各項目をそれぞれ説明後、》

以上でございます。

《委員長》

今回の協議会のテーマとして3つございますが、本当は1番目、2番目から始めないといけないのかもしれませんが、これらはざっくりしていますので、3番目の話をしていく中で、1番、2番のイメージも出てくるのかなと思いますので、先に「道の駅」の話からやらせていただければと思うんですが、いま事務局から説明いただいたんですけども、私の方から補足をさせていただくことでより解りやすいのかなと思いますので、補足をさせていただきます。

資料の6ページで「道の駅」とは、という話で、そもそも「道の駅」の原点というのがあるのですが、私も「道の駅」の構想が立ち上がった初期の頃から色々な所でお手伝いをさせてい

ただいてるんですが、現在、「道の駅」というイメージは、皆さんの頭の中には、大きな産地直売所、土産物屋みたいな感じになっていますね。

ところが、元々「道の駅」というのは、それだけではなくて、先ほどもご説明がありましたけれども、鉄道が走ると駅ができる、駅というのはまちの顔なんです。そして外からの人と中の人が接点を持て、交流ができる。鉄道が走ってしばらくは、鉄道が社会の中心であった頃は、鉄道の駅というのはまちで非常に重要な役割を成してきました。駅前の商店街とか、駅前の地域というのは、まちの顔であったり、そこで色んな人たちが集まったりということだったんです。

しかし自動車時代になってから、駅に相当するまちの顔とか村の顔というのがあまりよく解らなくなってしまったのです。色んなところで同じような規模、同じような顔になってきてしまった。それで良いのかという話があって、もう一度鉄道の時代に戻せというのは無理だから、自動車の時代に相応しい駅の様な施設もあっても良いのではないかという発想でできたのが「道の駅」なんです。

ですので、産地直売所も一つの機能としては重要なんですけれども、それ以上にまちの顔、村の顔として、ここに来ればまちや村の事が全部解るとか、あるいは村の人と外の人たちが交流が持てる、さらには昔は駅前に映画館があったり、公共施設があったりして、まちの中心部だったんです。そうすると「道の駅」は自動車時代のまちの中心とか村の中心になったほうが良いのではないかという発想で、「道の駅」の発想があります。

けれども、残念ながら、今はそれに相応しい利用の仕方が出来ている「道の駅」は極めて少ないんですけれども、そういう意味では、「道の駅」というのは、ここの地域の方々の利用もかなり想定して利用していくというのが、本来のあり方ではないかなと思います。

場合によっては、ここに地域の方々が集まるホールとか集会所みたいなものがあって、ここで会議をして、帰りに買い物して帰れるとか、そういうような場所でもある。ですから今回皆さんと一緒に考えさせていただく「道の駅」というのは、本来の「道の駅」の形でつくれないだろうかというのが、私の思いです。これは後ほどご意見いただければと思います。

一つ具体的な事例を上げますと、びっくりしたものではありませんが、私がお付き合いさせてもらってる中で、兵庫県の豊岡市日高町に「道の駅」があるんですけれども、そこにレストランがあるんです。そこは高級フランス料理のレストランが入っているんです。そのシェフは、大阪のホテルで勤めてらっしゃった方が引き抜かれて、そのシェフ、オーナーになっていますので、すごくおいしいフランス料理を出してくれます。ランチでもコースで頼むと1,800円ほどで、それなりの値段取られます。なぜその話をしてるかと言いますと、これはドライブがてらの人が寄ってるだけじゃなくて、実はまちの人たちがたくさん来られてます。日高町の人には申し訳ない言い方ですけども、それなりの高級フレンチが食べられる店が今までなかったのですが、そういうものができたことによって、まちの人たちが食事に出かけられるようになったということです。

それをここの地域の話で例えれば、皆さんお宅で法事をされたときに、「あとから食事どっかに行こうやないか」というときに、こういう洒落た所ができて、みんなで行けるような、外の人たちに金を落としてもらっただけじゃなくて、この地域の方々が積極的に通いたくなるような、そんな内容になっても良いのかなと思ってるんです。

さらにこの日高町がおもしろいのは、一流のレストランができましたので、そのオーナーシェフの人はすごい腕前もった方ですので、たまたま私の知り合いの方の息子さんですけども、料理を勉強したいということになりまして、そのフランス料理のレストランでシェフの修行をしてるわけです。そういう一流の店があるからこそ、その地域の中で若い人たちが勉強でき、そこで腕を上げるとまたどこかで店を持てるというような、そんな地域の若い人たちへの貢献もしてくれてるわけです。

このように、単に観光客を目当てにした物販店とか休憩所で考えるだけではなくて、もう一つは地域の方々のための拠点であるという考え方をすると、発想も広まってくるし、地域の方々のための話にもなるのかなと思います。

これは「道の駅」じゃないんですけども、これもたまたまですけども、いま茨木とか箕面の山手のほうで新名神の工事が始まってるとはんですけども、茨木の山手のところにサービスエリアができます。私も市役所の方に声をかけていただいて、そのサービスエリアの土地をお持ちの方の集会に行きました。

当初は、サービスエリアができる分だけ買収の土地が増えますから、反対をされてたんですけども、そのときに私もお話をさせてもらったのは、いま高速のサービスエリアに行かれると、コンビニとか、いろんな店が入ってます。茨木の山の方にはコンビニはありません。サービスエリアにできるコンビニを、地域の方も使えるように、外からも入れるように設計をすると、サービスエリアのコンビニなんだけれども、一方でまちの方のための、地域の方のためのコンビニとしても活用できるじゃないか、そういう風にすれば、外の関係ない施設ではなくて、地域のための重要な使い方ができるんじゃないでしょうかというような、そんなお話をさせていただいたことがございます。そんな目で見ていただければなと思います。

資料の8ページ、ここが非常に重要なんですけども、補足をさせていただきたいと思いますが、先ほどレストラン、直売所はお話をしましたし、今回話があまりなかったのは防災活動拠点という話ですけども、これは広場ができるし、大きな駐車場ができます、土日は車で一杯になるかも知れませんが、平日はそんなに一杯にならない。この大きな駐車場とか平場の土地は何の利用ができるかという、いざというときの災害の避難にも使えるんじゃないかとか、あるいは災害物資の集散所にも使えるんじゃないかとか、そういうことを考えると、ますますこの地域の方のためのものになってくるんじゃないかと思ってます。

先ほど周りの方々がどう使うかという、どう関係するかという話をさせていただきましたけれども、レストランも、日高町のようにどっかから呼んでくるんでなくて、地域の方々がそういう腕前、ノウハウをもってらっしゃる方がおられれば、その方に経営してもらおう。そしてそ

ここで使う食材は地域の食材を使っていたという関係ができると、ますますつながりができるのかなと思います。

先ほどの事例紹介で猪名川町のそばの話がありましたけれども、猪名川町とそばは何の関係もありません。実は「道の駅」を構想した町役場の担当者のお知り合いに、そば打ちを趣味にされてる方がおられまして、「道の駅」ができるんだったらそば屋出したいという方がたまたま見つかりましたので、その方にやっていただいている。趣味といっても相当の腕前の趣味でしたので、それが口コミでどんどん、どんどん大きくなって、今はすごく人気のあるそば屋になっている。こんなことで、ここにお金が落ちるということでもありますし、経営者の方も地域の方だったら、もっと地域に金が落ちるといえることになるとと思います。

という話を事務局としてましたら、市役所の方が、実は岸和田市のバイオマスタウン構想があるという話なんで、それだったらそれも関連付けてみましょうということになりました。レストランができましたら残飯が出てくるわけですから、この残飯をその場で堆肥化をする、その堆肥を、周りには農家の方、農地がいっぱいあるわけですから、そこへ持っていく、とするところの中で資源の循環が回り始めるわけです。こういうことになってくると、外へゴミを出さないという地域ができるんじゃないかという発想でございます。

さらには食材もここで調達しますから、外に迷惑かけない、すべての資源とかエネルギーをこの地域の中で賄うことができれば、かなり全国的にも、大げさに言うと世界的にもアピールできる地域にできるんじゃないか。そういうバイオマスタウン構想の一環としてこの地域を位置づけていただくと、環境省からも補助金がいただけるんじゃないかというような、そんなことを考えながら、ここでは提案をさせていただきました。

また、資料9ページ、これは「道の駅」とは何の関係もなさそうに見えるんですけども、今の話でご理解いただけるかと思いますが、それじゃこの全体を誰が、どうつないでいくんだという、つなぎ役が重要なんです。レストランはどなたかにやっていただく、堆肥化もどなたかにやっていただく、産直所も誰かにやっていただく、それ全体をつなぐとか、たとえばこの経営者にはこの人がいるというように、誰かがつないでいかないといけないわけです。

そのつなぎ役が重要ですよということで、ここでは一番典型的な話は、東大阪市の商工会議所の話ですけども、全国から、こんなもの作れないかというような依頼が来ると、一旦、商工会議所が受けるわけです。商工会議所が、この製品を作るには、この企業さんとこの企業さんに声をかけたら、組み合わせたら作れる可能性があるというように、コーディネーターを商工会議所がやってくれるんです。こういうコーディネーターとかつなぎ役さんがいると、もっともとおもしろい展開ができると思います。そんなことも一緒に考えていきたいと思っています。

全体をつなぐというのはなかなか難しいですが、例えば資料8ページに情報発信という話があって、外からこられた方が、この地域にどんなものがあるんや、名産品はなんやとか、どういう名所があるんやと聞かれたときに、ここにはこういう所があるから、車で5分で行けるか

ら行ってみなさいなんていう、地域の事をよく知った方がおられて、地域をつないでくださると一番良いんです。

これは具体的に言うと、皆さんのような地域の方が、交代して1週間の中に半日で結構ですので、こういう場所に座っていただいて、外から訪れた方にガイドしていただく。ガイドといっても連れて行く必要はございません。相談受けて、それやったらここへ行きなさいとか、名産品はここに行ったら買えますよとか、よく地域のこととか情報を知ってらっしゃる方がつないでくださるような、そういう拠点になれば良いのかなというような気がします。

こんな話をみんなで盛り立てたいなと思っております。長くなりましたけれども、より具体的にお話をさせていただきました。

事務局との話でもそうでしたけれども、今のお話でわかっていただきましたように、出来るだけ色々なものをつないでいく、そして発想もプラス思考で、こんなんもできるんとかうかとか、こういう発想もあるで、そこにそういう話が出たらわしはこういうところに参加させてほしいとか、そうやってつながっていくと、前向きな話に展開できると思いますので、そういうことをできるだけたくさんの人たちと話をつないでいく、そんな構想の進め方みたいなものが今後もできたらおもしろいかなと思っております。今までの話で、まずは「道の駅」に関して何かご質問とかご意見はございますか。

《F委員》

「道の駅」を核にやるということですけども、私もここ3年、4年、バス旅行で、近畿、鳥取から長野付近まで行くんですけども、「道の駅」あるけども、原っぱの所にドーンとあったり、そういうところが大多数です。立地場所として外環沿道とありましたけど、集客しようと思えば、観光バスが、委員長が言われる個人の客はありますけども、観光バスで50人、100人が、バスが3台、5台、10台、毎日じゃないですけど、そういう形で入って来るように考えないといけないと思います。

奈良の「道の駅」で神社の近所にあったんですけども、あそこは有名なお寺とかありまして、私、9月に行ってきましたけども、この日は日曜日で、結構、人が入ってましたが、有名な所に観光バスが来て、バスでトイレ休憩できるということで、基本的に道路がなけりゃあかんと思うんです。私が見る限り、外環で、観光バスが通っているのをあまり見たことがない。

それと和泉の「道の駅」が出来たと思いますけど、ここ1カ月の間に3回ぐらい、平日通りましたけども、閑散としておりました。朝市は混んでえらい人や言うてますけど、観光バスが停まっているのを昼間に見たことないんです。高速道路なんかはどんどん走ってやってますけども、外環は観光バスが通って、集客ということになったら、どんなもんかなと思います。

「道の駅」を目玉というか、主体で進めていくんでしたら、近畿の近所の10点ぐらい、調査というか、どういう状況やということをヒアリングなどを事務局でしていただくなり、その後の現状教えていただいて、それを参考に悪いところは直す、そういう形にしていかないと、ただ

「道の駅」が万能と言っても、現状調査したらどうかという、そこらの失敗してるところを参考にさせていただいてやらんことには、なかなか難しいなと考えてます。

《委員長》

それは今後皆さんと一緒に詰めていく必要があるのかなと思っていますし、この前事務局の方と話したときに、市役所の方には非常にシビアな事を言ったんですけども、G委員なんか事業やられてると解ると思いますけど、事業する方は、そろばん勘定をはじめなかったら、失敗したらとんでもない事になるわけです。ところが、市役所の方は、そろばん勘定せんでも、何年か経てば自分は居なくなるわけですから好きなこと言えるわけです。そうではなく、役所の方はクビにならないですが、地元の方は金かかっているわけですから、責任もってちゃんと一緒に考えてもらうような事をしないとイケませんよという話を、私の方からもさせていただきました。

先ほどのF委員のお話で言うと、観光バス用に仕立てをするのと、家族連れのような方に仕立てをするのでは、内容も違いますし、そろばん勘定の仕方も違いますので、その辺りの可能性ももう少し進んだ段階では十分にやっていく必要があるし、逆に言うと、どれだけ儲かるかによって、最初の設備投資がどれだけできるかということも、逆手の発想で決まってくる部分もありますので、そのあたりは当然事務局の方もそろばん弾いていただかないといけないし、我々もいろいろとチェックさせていただく機会がぜひとも必要だと思っております。

《B委員》

J委員にお聞きしたいんですが、8ページの「道の駅」の直売所やレストランと書いているのは、これはJAが造るということですか。ではなくてこれとは別に農協が考えているんですか。

《J委員》

内容が合うのであれば、「道の駅」という全体の構想の中で考えたい。

《B委員》

これは極端やけども、「道の駅」の中に農協がレストランと直売所を造るということですね。

《J委員》

最低限直売所は考えています。色々それぞれ目的もありまして、いま議論されている「道の駅」が、全体構想の中で引き金になるようにというところで、委員長にもお話いただいていると思います。

その中で、農協が直売所ということ考えたのは、この事も考慮に入れてですけども、一つ

は、岸和田の農業自体が、いま岸和田市の中で、特に今まで農協がやってきた農業の支援をさせていただく分については、営農総合センターを中心に、専門的な農家の施設しか、今まで整備もしてきませんでしたし、ある意味では専業農家の人のための営農ということで、今まできてたんです。

ただ、時代がどんどん、どんどん変わってきまして、専業農家の人の後継者が全部農業するのかというと、そういう訳にはいきません。それに比べると農地というのはまだありますし、そういう意味では小規模の農業をする人も、きちっと農業を継続してもらおうということで、今の時代では直売所を整備して、小規模であるとか、高齢者の方々、女性の方々の農業を支えていくという、ある意味では支援施設として直売所というのは全国的に展開されてますので、それを農協として施設整備しましょうかというのがスタートやったんです。

そんな中で「道の駅」というお話も出てきたので、それではということで、いま農協内部ではある程度進めさせていただいてますけども、全体整合性取っていくとか、計画の中できちっと位置づけていくというのはこれからやと思います。

《委員長》

先ほど東大阪の商工会議所の話をしていただきましたけれども、商工会議所というのは、名前のとおり、商業と工業のコーディネーターですね。農協というのは農業側のコーディネーターですね。だから農地とか農業をいかにつないでいったり、あるいは自分たちだけではなかなか販路を見出せない方々に、直売所を造ることによって、小規模な農作物を、小銭になるような、そんな仕掛け、仕組みをやるとか、あるいはこれから先、後ほどの議論になりますけれども、農地としては残したいけれども、わしはなかなか難しいという方にとっては、農協さんが新しい担い手さんを探してくださって、農地を貸すという、そんな形をつないでいただいたり、いろんな役割が、農業側のコーディネーターとしての農協さんの役割というのは出てくると思うんです。

場合によったら、レストランを農協が経営するというよりも、農協の組合員さんが参画をしながら経営をするというような形もあるし、今回は言い忘れましたけれども、農作物だけではなかなか大きな金になりませんので、そこに付加価値をつける、具体的に言うと、加工品にしていくわけです。加工品を作るような工場も、農協さんも出資をしながらやるとか、色んな可能性が、みんなで考えていけば膨らんでいくのかなと思うんです。

それも最初に大きな投資をしてしまうと、それがうまくいかなくなったときにリスクがありますから、最初は様子を見ながらというか、場合によっては産直所の最初はテントでも良いと思うんです。レストランも屋台みたいなもので良いと思うんです。その人気が出てくればちゃんとした建物に変えていくとか、ちょっとテントじゃ困るという話になってくると、プレハブが良いと思うんです、プレハブだったら100万、200万で簡単な建物建ちますので。そこでやってみて、うまくいくなったら、しっかりとした建物にかえていくとか、そういう形での展

開を皆さんと一緒に今後考えさせていただいたらどうかなと思うんです。

《M委員》

資料5ページの「道の駅」の整備計画及びその効果についての地図があるんですけど、一番近い丘陵地区との関係が何も出てきてないというのが、一番これから議論しないといけないところであると思うんですけど、例えば丘陵地区の中で市民農園やるとしたら、最初に「道の駅」に来てもらって、そこから周りに歩いて行ってもらうとか、そういうことをやっていったら、相乗効果が出てくると思うんですけど、中央線が延びてきて、外環状線に当たった所、つまり「道の駅」あたり、ここはどう考えても丘陵地区の一番中心になると思います。もしも「ようこそ〇〇タウンへ」と書くんやったら、この辺りになるかなという気がするんです。

それと私が思っているのは、中央線と外環状線が当たった辺りから、この図面で右上に上がっていく、いまは細い道ですけど、あるんですけど、ここが一番この地区で広々として谷になって、一番気持ちのいいゾーンだと思ってるんです。もし人を呼ぶなり農業するとしたら、まずこの地区をしっかりと位置づけて、根本的な計画を練っていく必要があるかなと思ってます。

《委員長》

おっしゃるとおりだと思います。この3月にまとめさせてもらった図は、どちらかという面でも、どういうゾーニングという話にとどまっていますので、先ほどM委員がおっしゃっていただいたように、今後はもっともっと戦略的に、軸をつくったり、拠点をつくったりという話ができたらなと思いますので、お知恵をいただければと思います。

実は資料を配っていただいて、全然説明がなかったんですが、「道の駅基本構想」があって、これを作られた方にはちょっとシビアで申し訳ない言い方ですけども、もっとラフな絵だったんです。裏から2枚めくっていただくと、同じような絵があって、これをベースに先ほどの5ページを作らせてもらってるんですけども、いよやかの郷まで線を引かせてもらって、丘陵地区をピンクに変えただけの話で、先ほどM委員がご指摘いただいたように、もっともっとピンクのエリアに線を引けよというのは、おっしゃるとおりで、そういう意味では、8ページの図が5ページの図のところに具体的に落ちていくような形になってくれば、さらにおもしろい展開ができるんじゃないかなと思うんですけども、あまり線引っぱったら、ここにこんなことができるんかという話になるので、なかなか線が引っぱりにくいので、8ページと5ページとあえて分けて書いてというのが事務局側の思いだと思うんです。最終的には5ページの地図の上に8ページの図が載ってくるというイメージで議論させていただけるとと思います。

《F委員》

「道の駅」というのは国交省の管轄ですね。これをやるとなると総工費の7割補助ぐらい出るんですか。

《事務局》

先ほど言いましたように、「道の駅」の機能としては、休憩とか、連携とか、情報発信とか、色々あるんです。その機能に合った工事費、たとえば休憩機能でしたら、ものでいいますと、トイレとか駐車場が想定されます。これについては道路管理者がやれる施設ということで、道路の特定財源の補助を使うという形になってます。ですから道路特定財源の補助率を適用。例えば産直とかの分野のものを整備するとなれば、農林水産省の補助になってきますので、その補助率を適用するということになります。ですからこの事業自体は、具体的に言いますと、大阪府とか岸和田市と連携してやっていくなかで、色んな事業主体が、色んな補助事業を使ってやっていくという形になると思います。

《B委員》

その補助事業には土地の買収費用も含まれるのですか。

《事務局》

土地の買収費用は、ないと思います。施設の築造費のみです。

《委員長》

先ほどF委員のご質問にもあったように、補助金引っぱってくる腕前というのは、事務局側というか、市役所の知恵の働かせどころですから、その辺りは私も含めて十分に期待をさせていただいて、今までみたいにサラッと流さないように、できるだけたくさんの補助金メニューに載せていただけるようなことができたかなと思います。

先ほどのバイオマスタウンも、実はそういう発想から連携して言ったんです。私の方もアイデア出させていただきましたけれども、せっかくやるんだったら、環境省の金も突っ込んだ方が良いのではないのかという話です。

《J委員》

先ほど農協と「道の駅」のことでご質問あったんですけど、実は当初、先ほども少し話をさせていただきましたように、地域の農業の振興施設という意味で、農産物を換金するための施設整備ということで、直売所を計画していきましようかという話になったんですけども、その話を進めていく中で色々な関係の方々からアドバイス等々いただきまして、8ページにまとめていただいているような、特にモノの交流というか、ある意味ではお金に換えるという換金場所という、端的にそれが入り口だったんですけども、農協が今までやってきました農業との関わりの中で、特に消費者の方々、特に地域の、市内の人、市外の人含めて、消費者の方々とする意味では交流を持ったり、対話をしたりというのが、今までやってこなかったですし、しいて

は農家の方も中々そういう場面というのはなかったと思いますので、今回、「道の駅」との整合性というのは当然必要になってくるかなと思いますけども、ここに書いていただいているような、特に農業なり農産物を介して人と人との交流という部分、その部分がこれからの農業にとって、少し話は大きくなるかもわかりませんが、まちづくりにとっても非常にこの辺りが大事なかなと思います。そういう意味では、一次産業である農業、漁業、また、商工会議所の方々と連携取りながら、人との交流という部分もこの中でやるべきかな、そういう意味でここはきれいにまとめていただいているなという思いはしています。

《I委員》

中央線を計画して、外環までいくということですけど、中央線の進捗状況と、そして「道の駅」の色々説明いただいておりますけれど、いつ頃でき上がるのか、そして直売所との関係でいつ頃できるのか、「道の駅」や中央線についても市の方で解る範囲で説明していただきたい。

それと農協の方で直売所いつ開設していくか、いま現時点で、そのへんをお聞かせいただきたいと思います。

《事務局》

進捗状況ですが、今、岸和田中央線の用地買収を進めておりまして、概ね買収率が8割強となっております。現在は工事をしていないのですが今年度、大阪府の方である区間だけをやっていたという話も聞いております。

「道の駅」の開設時期ですけども、今そのことで議論してますので、まだ内容は決まっていない段階です。いつから「道の駅」を着手するとかについては、いま委員長おっしゃいましたように、内容を詰めて、事業時期なんかを考えていきたいと思っております。

直売所につきましても、J委員がおっしゃったように、時期はまだはっきり明言できないかなと思っております。

《副委員長》

質問を含めて発言させていただきたいと思います。「道の駅」の広さと、その底地の土地所有というのは、どうなっているのでしょうか。例えば、皆さんが参画されるとして、委員長がおっしゃるように、コミュニティセンターなどのプレハブ造るといった場合、そういうものは置ける可能性があるんですか。土地を借りて、その上に建てるようになるのか、そのあたりの仕組み等、もしお解かりになれる方がいらっしゃったら教えていただきたいと思うんです。

といいますのが、私も単なる直売所だけの「道の駅」ではなくて、地元の人が集まれる、例えば祭りが開かれたりとか、コミュニティが発生したりする、昔でいうと地域の寄合所、交流所のような、そういう形の場所が併設されてくると、非常に活性化するんじゃないか。たとえば単なる日常の買回り品だけ置いてあるような店ができるんだったら、ニュータウンの近隣セ

ンターみたいに、また問題が生じるかなと思いますけれども、地元の人が積極的に参画できるようなお話を委員長からお聞きして、いい話だと思いました。実現性も含めて、どのぐらいの広さがあるのか、ここに書いてなかったので、そういうのは皆さんよくご存じのうえでの話なのか、前回休んで、どこまでの話がいったのかわからないんですけども、そういうところをお教えいただけたらありがたいんですが。

《事務局》

副委員長からのご質問ですけれども、「道の駅」での機能としましては、6ページに書いてますように、休憩機能とか、情報発信機能とか、地域連携機能とか、これにふさわしい施設でしたらできますということで、その機能を満足する施設を建設することは出来ると思います。

今の土地の権利状態ですが、市の土地もあり、個人さんの土地もあります。その施設の大きさ次第で土地の権利者底地は誰のものかということになってくるんですけども、市の土地でしたらそれなりに絵を書くことは出来ますが、個人さんの土地まで必要となれば、買わせていただくとか、借りるとか、そんな手当てをしないとできないのかなと思います。

《委員長》

副委員長がお聞きになりたいことというのは、もっとストレートに言えば、これだけ造るのにまとまった土地が、誰か1人の地権者で、具体的に言うと市役所ですね、役所のものになってますかという話なんです。それはまだやということですね。これからどれだけの規模かということで、買収かけるのか、土地の交換をかけていくのか。

《副委員長》

端的に言えばそういうことで、ここで意思決定をしたものがそのまますぐに反映されるかどうかの確認も含めて、お聞きしたわけです。

《事務局》

さっきF委員言われましたように、市場調査してからということですよ。それでエリアとかも決まってくると思いますし、面積が決まってくるのかと思います。

《副委員長》

まだ面積は。

《事務局》

まだ決まっていません。

《委員長》

私の言い方がまずかったのかも知れないんですけども、すべてが「道の駅」ではなくて、「道の駅」の周辺に幾つかあって、それが連携しながら一つのゾーンになるという考え方もあるので、だからすべてが「道の駅」のうえに乗っかっているということでもないのかなというような気がします。

前回までもお話ししたように、トリガーというのがまさしく引き金になりまして、ここがうまくいけば、尻馬に乗ってどんどん、どんどんいろんな施設とか、可能性見えてくるんです。ですのでここは慎重にしっかりとうまくいくようにみんなで知恵を働かせていきたいなと思っております。場合によったら、これがかなり具体的になるんだったら、うちの土地はこういう使い方もあるなみたいな話に展開ができるような順番でいけたらいいかなという気がしています。

具体的に言うと、今はすごい観光地になっている滋賀の長浜ですけども、あれはたまたま北部銀行の建物が売りに出て、それを地元の方と市役所の方がお金を集めて、2億円で買い取って、しかしながら、あの当時は、私も色々関わっている方にお聞きをすると、あそこの前の通りがどんな状況だったのか、いつもおっしゃってる話で言うと、3時間あの建物の前に立っていると、通ったのが犬1匹やった、そういう状況だったんです。ところが、今は90万、100万の人が来るようになってますね。

だからそういうことを考えると、魅力的なものをみんなで力を合わせてつくることによって、どんどん、どんどん、口コミも含めて人が来てくれますし、長浜の人たちが一番喜んでるのは、若い人たちが居ついてくれるようになった、そこでちゃんと仕事ができたとということです。そこがすごく重要だったし、そのことが実は別のところにつながってますという話をさせていただいたのは、お宅どこの出身ですか？という話をしたときに、若い人たちが、元気よく、「長浜です」って言えるようになった。昔は、「彦根の近所です」という言い方をしたものが、長浜ですと言えるようになったというので、すごく良かったとおっしゃってましたので、成功してから行くと、こんなんでできるかなと思うんですけども、私はいろんなところお手伝いしてきましたけれども、最初はみんな大変な状態で、こんなにいけるのかなというようにところを、みなで汗かきながら、成功に導いたということです。

」委員と、もう数年前になりましたけれども、大分の大山町に行かせていただきましたけれども、そこも宿泊施設とか、産直とか、セットでつくられてるんですけども、まちの役場の方がすごく頭のいい方で、町民に出資してもらってるんです。出資すると、自分の出資金返ってこないと危ないので、みんなが使うようになります。

一つエピソード的な話で言うと、ある年に、大山町は雪深いところですので、冬に豪雪になって、観光客がほとんど来なくなった時期があった。そのときにどうやってみんなで持ちこたえたかという、忘年会とか新年会をその宿泊施設のレストランでみんながやったんです。それで金回したんやという話を聞きまして、そういう意味では、長浜もそうですけれども、自分たちが金を出すことによって、責任もみんなで分担する、市役所も当然金出さないといけま

せんが。逆に言うと、誰かに任せると、最後に出てくるのは文句だけなんです。おまえら口だけでうまくいかへんかったやないかという話になるので、そういう意味では少しずつみんなが役割分担しながら、責任もちながらやっていくというのがいいのかなと思いますし、そういう意味ではレストランもみんなで行くと、実はもう一つの副次効果がありまして、地域の方がレストランやられてるとします、農協さんでもいいです、自分たちが足繁く通っていると、この味じゃあかなとかいう評価がすぐにはできるんです。人任せにしていると、なかなかそれが解らないんです。

あるいは自分たちが作った食材がどのように調理されて、そのレストランに出されてるかという話がちゃんとチェックできますので、そういう一石二鳥、三鳥の役割ができるように、おもしろいシナリオが書けたらいいかなと思って、期待をしております。

《副委員長》

バイオマス関係のお話を少しだけ時間をいただきたいと思うんですが、近所で言いますと、河南町が動きをされてるのはご存じかと思いますが、さらに民間も含めて積極的に規模を拡大しようという動きをお持ちというふうに聞いております。全国のバイオマス関係をやられてるところを見てますと、まだまだ行政主導型のところがかかり多いことは多いんです。

ただ、民間でもやられてるところは全国探せばあります。先ほどゴミも含めて持ち出さないという、ゼロエミッションであるとか、コンパクトタウンとかシティとかという話がありますけれども、エネルギーの循環や木材チップをつくったりとか、それをまた地域部や市内で動かしていくような、そういうものを思うと、本当にいまどきの話題でもありますので、全国的に視察を呼べるぐらいのものになれば、さらに観光という側面でも可能性あるのかなと思いました。

《委員長》

「道の駅」関連はよろしいですか。

それではもう一つの今日の重要な話題ですけれども、進め方とアンケートについてご意見をいただきたいと思います。これは私も事務局と相談して、具体的なものがお示しできたほうが、アンケートは当然具体性をもって答えていただけるんですけども、それを待ってたら遅くなってということもあって、大ざっぱな形でも、今のご意向を聞きたいなという部分もあって、そのあたりタイミングと内容というのがすごく難しいんです。そこを資料の1番と2番、からんでると思いますので、残された時間で議論をさせていただきたいと思います。いかがでしょうか、質問でも結構です。

《G委員》

地権者へのアンケートで、基本構想の内容についてご存じですか？というのは、前に発表さ

れたときすぐに全部の地権者に配布して、読んでいただいているんですか。

《事務局》

基本構想につきましては全地権者の方に配布させていただいております。

《F委員》

それは役員さんの方だけと違いますの？

《事務局》

全部です。説明会で配りましたね、来られなかった人は郵送したわけです。

《委員長》

これも選択肢がないので、さらっと聞いてありますけれども、配ったことだけは知っておられる方もおられるし、しっかり読んだ方もおられますでしょうし、パラっと見たという方もおられますでしょうし、どのくらい皆さん関心もって見ておられるのかなというのが、まず一番最初の聞く内容ですね。

《G委員》

あんまり今の人は文章読まんから、関心のある、8ページのトリガーになってる、「道の駅」の、こんな絵が一番パツとくると思うんです、こういう具合に活用していくんやなという。

《H委員》

それと土地をってる地域によっても格差があると思うんです。住宅地の周辺でってるお方と、農業しかすることないなという地域でってる人とのアンケートの取り方も変えていかないと、仮に山手のほうで持ってて、住宅地が欲しいといった場合、換地率がだいぶ変わってくると思うんです。そのへんも含めると、かなり厳しい内容になってくるん違うかなと思うんです。

《委員長》

これも後ほど議論をあるタイミングでさせてもらわないといけないんですけども、かつてはすべて土地区画整理事業でという話だったんですけども、今回はすべてではない可能性高いですね。ですからそのままの形で土地を持ちたいという方に関しては、減歩のない形で従来型の使い方をしてもらおう。でも、区画整理事業の中に入りたいという方に対しては、当然それだけのリスクというか、減歩もかかってきますし、そういうメニューも示しながら、どれが一番いいんだという話に、今回はそこまでいけないと思いますけれども、あるタイミングではそ

んな話を聞いていかないといかんやろうなと思うんです。

《H委員》

いずれにしても、そうしていかないと前へ進んでいかへんからね。

《M委員》

問2で、読んでるとして、この基本構想、私も読みましたけど、重要なキーワードは、非常に言葉を選んで書かれてあると思います。これをじっくり読めば自ずと答えは出てくるように、実は書いてあるんだと、私は思ってるんです。ただ、一人一人そこまでたぶん読まないと思うので、表面だけ見たら、住宅地、業務地、農空間、全部並列でいろいろやりますよということだけ読み取れると思うんです。そのへんが問2に賛同するということはどう答えたらいいのかなと思うかなと思うんです。

今まで検討委員会で一番具体的に示されてたのは、口ハスの里というペーパー（第七回丘陵地区整備計画検討委員会の資料を参照）がありましたね、農業を中心にいろいろ組み立てましよう、私はこれは一番イメージが伝わりやすかったなと思ってるんですけど、ここに入ってないんですね。このくらい書いていただいたら、まだちょっとは伝わるのかなという気がするんですけど。

《委員長》

概要版的なものはさみこんで、アンケート取ったほうがいいですよというご提案ですかね。事務局のほうも参考にさせていただいて、お願いします。

《L委員》

アンケートですけど、前にも何回もアンケート取って、前のやつと今回は全然違うんやということの認識が、各地権者がされてるかどうか、前の続きやったら、こんなもん何回取っても一緒やないか、前も取ったやないかいということになるんで、今回はこういう形でこうですよということ、地権者に知らせる何かがあると思うんです。その後にアンケート取ったほうが、自分はこうしたいんや、こういうことも取り入れてくれるんやなということの中でのアンケートのほうが、同じ取るんやったら、もうちょっと具体的に何かを示してからのアンケートのほうがいいような気がするんです。その点委員長どうですか。

《委員長》

意識づけの機会が必要やということですので、そのあたりも工夫をさせてもらえますか。1ページを見ていただくと、なぜこのタイミングでというのがある程度わかる人にはわかるんですけども、今日トリガーというか、引き金、「道の駅」の話をさせていただきました。これ

はごく一部分ですので、話しやすいんです。ところが、もう一つ重要な問題で、150haをどういう形でゾーニングをして、どういう形で土地を整理していくかという話になってくると、お一人お一人の意向がかなりからんでくるので、どっかで聞かないと、次の段階に行かれへんです。

例えば区画整理事業に賛同したいという人が50人おられた、それが40人になっても、70人になっても、それはそれで微修正はかけられていって、最終的にはもう一回最後の最後で、どないしますの？て聞かないといかんのですけれども、今の段階でどれぐらいの率でどうお考えかということを知ると、ある程度の前の話に進めるんですけれども、今までの状況だと、ちょっと前へ進めないんです。そこを事務局も困ってるとこなんです。

だからざっくりした話でもいいから、いまの状況で気持ち聞かせといてくださいという、程度という怒られますけれども、そういう形でのアンケートだと思っていただきたらと思います。だからタイミング、タイミングでまた何度もという話も、ご迷惑かけるとは思いますが、やはりどっかタイミング、タイミングでしっかりとしたアンケートを取っていく必要はあるのかなと思います。

委員がおっしゃったように、また同じと思われると全然効果がないので、それは工夫させていただきますけれども、構想が出た段階で少し説明させていただいて、それでいまの状況の中でどういうお気持ちなのかということをお聞かせいただきたいなという段階です。あんまり突っ込まない、けれどもある程度わかるという、そのあたりの工夫が事務局でもいま悩みどころなんです。

《F委員》

前は平成17年にアンケート書いたと思うんです。今回もそういう意向取り入れないかということになれば、丘陵地区の整備機構協議会立ち上げて、基本構想に基づいてのアンケートやということで、そういう文書を前面に入れて出したらどうですか。今度は今までと違うんや、今回こういう協議会を立ち上げたんや、これから検討するにあたって皆さんの最近の意見、4年前の意見やなしに、現状、土地が下がってきているときの意見を聞きたい、そういう形でいかれたらどうですか。どうしてもアンケートがなければ前へ進みにくいという委員がおっしゃってますので。

一部の地権者の方、何回書いたって一緒やという話もあるんですけども、今回、協議会がスタートした時点で、委員長の意向を考えると、ある程度最近の皆さんの意見が聞きたい、それによって考え方、修正もあるやろという考え方、僕はそういうふうには察してますけど。

《委員長》

そのあたり事務局と工夫させていただきたいと思います。

《副委員長》

私もアンケートに答える地権者側の方の立場、皆さんのお話聞いててよくわかるつもりです。いまここで話してるような大きな流れが地権者の方々にも伝わるようなことを考える必要があると思います。すなわち基本構想案は最終的な将来像を見据えたプランであって、それは進められるところから順次進んでいくというふうなニュアンスで、今回進んでいく可能性が高いと思われるわけです。そんな中での意思決定の状況を求めているわけですね。アンケートの時は、そのへんのニュアンスをわかるようにしといたほうがうまいんじゃないかなと思うんです。

最終のプランがこのようになる。しかし全部一気に動かないとだめだということでもないわけですね。今の段階で、いきなり全員が○か×かを聞くのか、漠然と何割程度ぐらいの方が参画されるかを知りたいのか詰める必要があると思います。でないと、ゾーニングもできないですし、そこでの計画の、どこからやっていくかというふうな順位づけもできにくいと思いますので、私もまさしく、そう思います。

ですからそのへんを、非常にたくさんの人数が対象なので、ヒアリングは難しくアンケートしかないのかもしれませんが、本当は、やるとなれば直に面談調査ということの方がうまいと思います。これは大変なんで、アンケートなんですね。これだけ多くの方いきなり集まっていたら、ご説明しながらその場で書いていただくというのは無理ですからね。

《委員長》

そうですか？それは事務局と相談ですね。

《副委員長》

説明しながら、討論されながら、実際に書いていただくアンケートと、ポンと投げて、郵送の回収方式でやられるアンケートでは、答え方といいですか、精度もかなり変わってきそうな気がしますので、お手数、時間と作業がものすごいかかると思うんです。ただ、それがいまのこの段階で必要かどうかという議論もしておかないとだめなのですけれども、地権者の方の6割の方なのか、8割なのかという、ばくっとした大枠だけつかめるということだったらアンケートで十分ですし、5割なのか、5割5分なのかということになれば、精度上げないとだめでしょうし、そのへんを作戦練っていかないと、あんまりめちゃくちゃなデータ出てきても仕方ないです。

《I委員》

地権者が各ブロックで分かれてますので、地権者の我々代表でしてますけれど、そこへ集まって詳しく説明したほうがええやろな。いま副委員長が言われたみたいに、文書でただ送ってくるだけというのは味気ないし、何かを聞きたくてもどないもできないからな。どこにも属せへんとなってきたら、あいまいなのが出てきます。

《副委員長》

送ってこられて、それをご近所の方だけで話すと、またやぁということだけになってしまいますのでね。

《I 委員》

それと考え方ですけど、誰でも人はどんどん考え方変わっていくんで、いま和泉市が大きな開発してる、また貝塚でも開発された、経済的な状況やいろいろなことを勘案すると、家の中でも、いままでおじいさんの名前やったけれど、今度息子になったとか、20年以上かかっているんで、色んなしがらみもあると思うんで、細かくみな集まって、分かれてやったほうが、集まりやすいと思う、地元でやったら。

《H 委員》

あんまり最初から難しいアンケート取ってしまいますと、そのアンケートの中で、わし参加せえへんという人が出てくると思うんです。それが開発したり事業やる中に含まれておった場合に、「俺はあの時、断ったんや」ということも出てけえへんかなと思うんです。だから最初は、F 委員おっしゃられたように、内容説明して、機構協議会に変わったんや、参考のためにこういって取らして欲しいんやということのほうが、あとの仕事がしやすいのではないかなと思う。あんまり最初からカチッと、ほんまのアンケートというか、事業やるについてのアンケートのような形にしてしまいますと、そこで俺あのとき反対したのに、絶対反対やということにもなりかねんし。

《F 委員》

前回 224 人にされて、84.8%の回収率ですね。いま言うたように、地区毎でやるということになったら、具体的な話を聞いてくると思うんです。そうやってきたら、役所の方が必ず居てもらって、その人が統一した言葉で言わないと、我々地権者代表が説明したら、ニュアンスで、聞いている人の取り方で、いいように取りますので、地区の代表者と役所の方があってヒアリングしながら、受け答えは全部役所にしてもらったら同じ返答になりますので、郵便で送るか、いま I 委員がおっしゃったように、地区ごとに役所の方と一緒にやるんやったら、そういう形でやったらいいし。

《I 委員》

それは当然です。役所が出てきて説明する。

《L委員》

私も地権者を一堂に集めて、一度委員長の講義でも出来たらということも考えたんですけども、二百何名がある地権者の中で、地区の役員さんが26名おられるんです。まず地区の役員さんと色々な形で話をして、それから後に、どういうふうな形で進めていこうかということの話のほうが、ある程度まとまっていくんじゃないかと思うので、委員長にもお願いしようかなと思ってますけど。

《D委員》

積川の場合、私1人で回ります。説明会になると3人しか来ないからね。質問事項とりあえずつくってもらって、アンケート取る文をつくってもらって、一軒一軒行って、十何軒ですから、それで取ったほうがいいと思う。何回も同じようなことがあったから。よその町みたいに30軒も、50軒も、60軒もあつたら無理やけど、十何軒やつたら、積川町に関しては僕なら僕で回ります。

《委員長》

皆様のご意向はわかりましたので、あとは事務局と相談させていただいて、どういう段取りでやると一番効果があるかということを考えさせてください。

私の今の思いつきで言うと、説明会します言うたら、またいつものように来ませんので、アンケート用紙と説明会の案内と両方とも送りつけといて、これやったら行かないとあかんかなというような、そういう圧力かけながら説明会をするというのも、一つの手かなと思います。

先ほどG委員おっしゃったように、本当に読んでるかどうかというのもこれでプレッシャーがかかってくると、どこに基本構想の本があつたか探すようになる人も出てくると思いますので、その仕掛けを事務局と考えさせてください。

およその時間回りましたけれども、全体あるいはほかに何かございますか。今日もたくさんいい意見をいただきまして、次の段階に進めていきたいと思います。前回はペースを早めろという話がありましたので、私も事務局のほうも頑張らせていただければと思っております。

《事務局》

次回の予定ですが、11月26日(水)午前10時から、市役所の新館4階の第2委員会室で行う予定でございます。

《B委員》

この協議会は毎月するんですか。

《事務局》

回数につきましては、毎月 1 回とかいう確定はしておりませんが、2 カ月に 1 度か、その都度、議題に合わせて調整させていただきたいと思っております。

《委員長》

資料の作成とか、色々ありますので、タイミング的に月 1 回できるかどうかということも、事務局と考えさせていただきたいと思います。できるだけスピードアップしてやりたいと思っておりますけれども。どうもありがとうございました。

閉 会 午後 4 時 5 分